

梁川の千羽鶴

2019. 11. 19

4月1日から私の日中の居場所は、梁川高校の校長室になった。校長室には、意外と多種多様なものがある。その中に、「ありがとうございます 梁川小学校」と書かれた千羽鶴がある。ずっと気になっていた。

校長室の清掃には3年2組の生徒たちが月交代で来てくれる。9月になり、また新しいメンバーがやってきた。その中の一人の女子生徒が、例の千羽鶴に反応した。聞くと、震災後に梁川高校の校舎で小学校生活を送ったと言うではないか。これでようやく謎が解けた。

震災当時、梁川小学校は被災し、校舎が使えなくなった。やむなく梁川中学校と梁川高校に分かれて学校生活を送るようになった。当時は梁川小学校、中学校、高校は、お城跡の高台にあり、同じ敷地と言ってもいいほどお隣同士だった。現在は、梁川小学校は移転し、りっぱな校舎になっている。現在の梁川高生で梁川中学校出身の生徒は、この当時、まず元々の梁川小学校の校舎で学校生活を送った。そして、震災後は梁川中学校あるいは梁川高校の校舎で1年ほど生活した。次に仮設プレハブ教室に移った。最後は、現在の新しい梁川小学校の校舎である。転校もしていないのに、4か所の校舎で小学校生活を送ったことになる。

梁川小学校からの千羽鶴は、当時の小学生が梁川高校の校舎を去るときに贈ったものだろう。くしくも現在の梁川高生の中には、この千羽鶴を折った生徒がいるわけである。このようなことは梁川だけの話ではない。あの平成23年3月11日から福島県内の多くの学校は通常の状態ではなくなった。通常であれば転勤する教員は、4月1日から新しい職場へと向かう。しかし、あのときは4月の異動がなかった。5月になってもない。6月もない。7月になってもない。そしてついに8月1日に転勤となった。

私は、8月1日から福島県教育センターという学校ではない職場へと異動となった。この施設も被災し、通常の状態ではなかった。私が所属するチームの執務室は立入禁止となっていた。仕方なく狭い部屋に、机は長机、椅子は研修室にあった使えるもので何とかした。この施設には体育館もあったが、そこでは相馬農業高校飯館分校の生徒が学校生活を送っていた。体育館を仕切って教室にしていた。この施設は、福島県内の小学校、中学校、高等学校の先生方のための研修施設である。県内の先生方が研修のためにやってくる所である。しかし、満足な研修ができる状態ではなかった。

ではどうしたか。先生方が来られないのなら、こちらから先生方の所へ行くしかない。というわけで、私は福島県内の様々な学校を訪れることになった。相双地区にも行った。磯部中学校に行った。学校は高台にあり無事であった。しかし、まわりは壊滅状態だった。集落が街が消えている。しばし呆然としたことを覚えている。それでも生徒たちは明るく学校生活を送っていた。いや明るくふるまっていたにちがいない。

思い返すと、ずいぶんと経ったようにも感じるが、まだ8年である。当時の小学生は、まだ高校生である。県内のあちこちで千羽鶴ではないにせよ、同じような出来事があったはずである。震災当時は、中学生や高校生のお世話になっていた小学生が、これからどんどん社会へと巣立っていく。通常ではありえない経験をしてきた子どもたちである。何かしらパワーが備わっているはずである。内に秘めた思いをもっているはずである。校長室にある「梁川の千羽鶴」を見ながら、彼らの活躍と幸せを祈らずにはいられない。